

21年  
9月  
採択

## 文部科学省平成21年度大学教育・学生支援推進事業【テーマA】大学教育推進プログラム 「医療系学部連携チームによる地域参加型学習」

取組担当者 医療系学部連携教育委員会 (AMEC\*)

早野順一郎<sup>1</sup> 浅井清文<sup>1</sup> 木村和哲<sup>1</sup> 鈴木 匡<sup>2</sup> 明石恵子<sup>3</sup> 大原弘隆<sup>1</sup> 前田 徹<sup>2</sup> 飯塚成志<sup>1</sup>

<sup>1</sup> 医学研究科 <sup>2</sup> 薬学研究科 <sup>3</sup> 看護学部 ※Allied Medical Education Committee

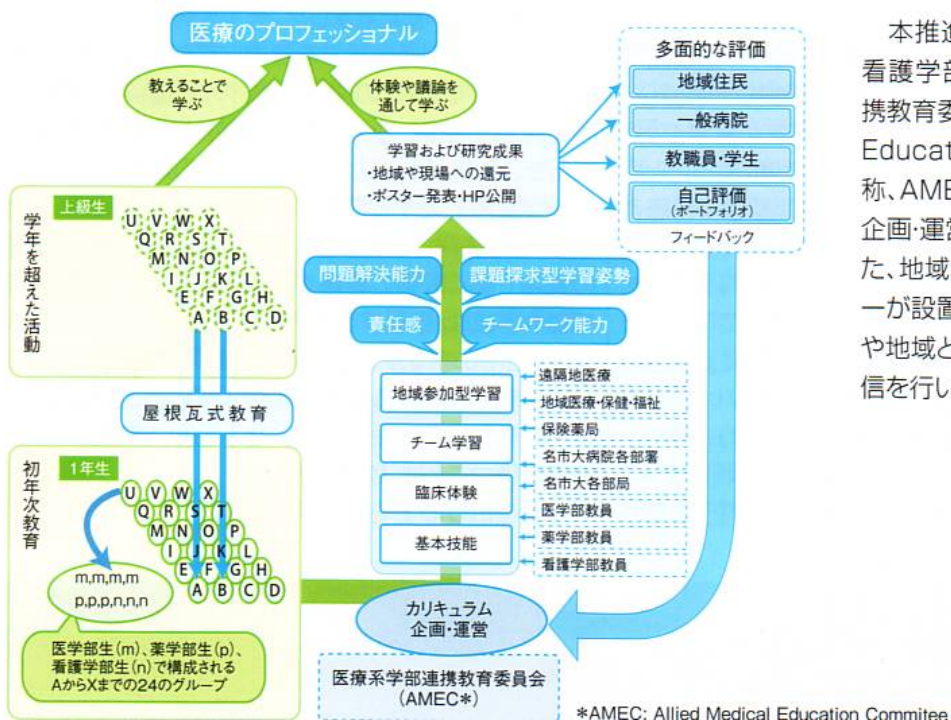
国際的な視野と情報発信力とともに、地域の医療活動の向上に資する能力をもつ人材は、大学だけあるいは地域医療機関だけでは育たず、キャリアとして両方の経験が必要です。本事業では、平成20年度に導入した医療系学部連携早期体験学習カリキュラムの学生グループ研究を、地域に向かって展開します。学生時代から地域と関わり、地域医療への理解と親和性を醸成すると共に、学生の活動を通して地域と大学が連携を深め、「地域が参加する医療人の育成」が、地域の教育文化となることを目標としています。

推進事業の特徴である「地域参加型学習」は、従来の見学や体験を中心とする「地域基盤型学習」を超えて、学生が地域社会の実際のニーズを抽出し「学生なればこそできる」課題の解決を学習テーマとします。その中で、医療系3学部を擁する本学の特徴を活かし、医・薬・看護混成チームによる人間性に溢れた、多面的で深みのある活動を目指します。



学生グループの活動にご協力頂く地域の一般病院への説明会の風景  
(2009年11月5日キャッスルプラザ)

プログラムには、初年次教育と学年間双方向(屋根瓦式)学習が含まれます。前者では3学部の1年生約240名が学部混成24グループに分かれ、地域の一般病院、山間地、離島、名古屋市内を対象に活動します。後者では、年次進行と共にグループに新しい学生が加わる形で学年間の縦の繋がりを形成し、高学年による低学年の指導を通して「教えることで学ぶ」教育を行います。



本推進事業のために、医・薬・看護学部による医療系学部連携教育委員会(Allied Medical Education Committee、通称、AMEC)が組織され、事業の企画・運営に当たっています。また、地域参加型学習支援センターが設置され、学生活動の支援や地域との連絡調整、成果の発信を行います。